

**杜の都景観
重要建造物等**

～杜の都の歴史と文化の継承～

杜の都景観重要建造物等

杜の都景観重要建造物等は、平成7年制定の「杜の都の風土を育む景観条例」に基づくもので、景観法の景観重要建造物等とは別の、本市独自の制度となります。まちの景観として親しまれ、仙台の歴史や文化とともに歩んできた歴史的・文化的建造物等を保全し、魅力ある景観づくりに活用するためのもので、景観形成に重要な役割を果たしている建築物、工作物及び樹木等(以下、「建造物等」という。)を対象として、仙台市景観審議会の意見を聞くとともに所有者等の同意を得て、仙台市が指定しています。

景観形成に重要な役割を果たしている建造物等とは、仙台の歴史を今に伝える希少なものや新たな個性を創出していく可能性があるもので、将来に受け継いでいくことが必要であり、以下の基準を満たす建造物等が考えられます。

景観資源としての価値

- 歴史的・文化的価値
建設当時の技術を色濃く残し、再現が困難なもの
文化財またはそれに相当するもの
歴史的・文化的特徴を有するもの
- 外観の状態
原型に近い形で存続しているもの
周辺の景観と調和し、デザインが優れているもの
- 周辺からの視認性
周辺から容易に見ることができるもの
地域のランドマーク、アイストップとなっているもの

地域への貢献度

- 地域とのかかわり
地域の景観形成に寄与し、住民に親しまれているもの
地域の物語性(歴史性、地名の由来など)を有するもの
- 市民への公開性
観光資源などの公共的な利用形態になっているもの
店舗などのように一般に公開されているもの



よこ やま み そ しょう ゆ てん

横山味噌醤油店

旧奥州街道に面する通町には当時の面影を残す建物が点在しています。

通りに面する「横山味噌醤油店」は明治6年に琵琶首丁(現青葉区大手町)から現在の地に移り住み雑穀商を営み、明治42年にそれをもとに味噌醤油の醸造を始めました。

藩政時代の敷地割が残る敷地の奥には住居・蔵・工場がつづいており、大正9年に建てられた白壁の美しい店蔵が杜の都景観重要建造物等に指定されています。

建物は、間口と奥行きが同寸のため、通りの中では人目を引くボリューム感があり、みせの腰壁や鉄のカーブした格子は、いかにもモダンな商家の粋を感じさせます。

漆喰で塗り固められた大棟や「水」の文字が入った鬼瓦、みせの重厚な調度品に町屋の商家の風格が感じられる貴重な建物で、平成15年度には仙台市都市景観賞を受賞しています。



◆青葉区柏木1丁目6-25

建築物概要

- ◆建築年 大正9年(1920年)
- ◆構造・規模 2階建て・土蔵造・瓦葺 間口3間半・奥行3間半・大棟の高さ30尺
- ◆延べ面積 75.2m²
- ◆外部仕上 外壁:漆喰塗り土壁 腰壁:大谷石張り
- ◆指定日 平成14年10月15日



こばやしやくひん
小林薬品



南材木町は、明治から昭和の初期にかけて、秋保軸道をつくった小林八郎右衛門(こばやしはちろうえもん)氏をはじめ多くの実業家を輩出し、また、戦災を免れたため今も当時の賑わいをしのぼせる蔵がいくつか残り、昔の面影を伝えているまちです。

建物は、明治はじめに味噌醤油の醸造業を創業した当時のもので、昭和38年まで営んでいましたが、その後薬局を営むこととなりました。

左右対称に開けられた虫籠窓(むしこまど)とそれを取り囲む海鼠壁(なまこかべ)が特徴的で、間口5間の大きさと5尺下がった2階壁と

のボリュームのバランス、そして大きな屋根にしっかりした海鼠壁ががっしりとした風格を感じさせています。みせの中には箱階段と、落とし込み雨戸を毎日建て込むための方立を差し込む金具が今も残っており、平成12年度には南材木町の街並みが評価され、仙台市都市景観賞を受賞しています。



◆若林区南材木町20



建築物概要

- ◆ 建築年 明治初期
- ◆ 構造・規模 2階建て・土蔵造・瓦葺 間口5間・奥行3間2尺・大棟の高さ25尺
- ◆ 延べ面積 96.6m²
- ◆ 外部仕上 外壁:漆喰塗り土壁 腰壁:1階レンガタイル貼、2階海鼠壁
- ◆ 指定日 平成14年10月15日

旧丸木商店



南材木町は、寛永初期に仙台城下を南方へ拡張する際に用材供給のために割り出され、当初は若林材木町とよばれました。仙台城下町町方二十四町の一つで、材木の他煙草の専売権も与えられ、商人や職人の町として栄えてきました。

丸木商店は「佐藤屋栄治商店」として、天明元年に薬種業をはじめました。商店は二代目の時代には藩内屈指の豪商となり、

安政時代には藩札として通用する「丸木札」の発行を認められていました。

昭和47年まで営業していた店蔵は創業当時のもので、建物平面がL型をしているために小屋梁の架構が非常に複雑になっているのが特徴で、店蔵としては市内最古のものと思われます。1階のみせには土間と広い板の間の形跡があり、2階調剤室の床には水平の格子戸のはまった荷降ろし開口があります。土蔵屋根の勾配が緩く、当初はさや屋根がかかっていたと思われ、重い漆喰塗りの開き戸のついた2階の窓が、シンメトリーに表情をつくりだしている美しい建物です。



◆若林区南材木町2

建築物概要

- ◆ 建築年 天明元年(1781年)
- ◆ 構造・規模 2階建て・土蔵造・瓦葺 間口9.27m・奥行8.37m・大棟の高さ6.4m
- ◆ 延べ面積 115.13m²
- ◆ 外部仕上 外壁:漆喰塗り土壁 腰壁:海鼠壁
- ◆ 指定日 平成16年3月25日



ぎゅう せん なん どう やく てん
旧仙南堂薬店



河原町は、仙台城下とまわりの農村との間に位置し、城下の南の玄関口としての役割を果たしていました。

奥州街道・井戸浜街道・閑上街道の三街道が集まる交通の要衝でもあり、周辺の農漁村でとれた野菜や魚介類が集まり、市場を中心としてまちは繁栄しました。

建物は、大正4年に砂糖、粉、水飴の販売を手がけてきた西村商店が建築し、昭和43年からは仙南堂薬店が看板をあげ平成13年まで営業を行っていました。この建物は敷地と道路の関係で、平面が平行四辺形になっているのが特徴で、それにもなって大黒柱も平行四辺形の断面で仕口も斜めになっています。創建当時は葺き土7寸といわれた屋根瓦でしたが、それを除いてはほとんどが当時のままで、奥には上方風の居宅が続いています。河原町の歴史を見つめてきた看板が印象に残る建物です。



◆若林区河原町1丁目2-45



建築物概要

- ◆ 建築年 大正4年(1915年)
- ◆ 構造・規模 2階建て・土蔵造・カラー鉄板葺
間口10.59m・奥行6.97m・大棟の高さ8.1m
- ◆ 延べ面積 134.49m²
- ◆ 外部仕上 外壁:漆喰塗り土壁 腰壁:秋保石積
- ◆ 指定日 平成16年3月25日

旧針惣旅館



南材木町には、商人などで賑わった当時の蔵造の建物が奥州街道に沿って数軒あり、また、南材木町と舟丁の間には、敵を待ち伏せするためにわざと鉤型に折り曲げた枡形(ますがた)と呼ばれる道路があるなど、当時を偲ぶ場所が多く残されています。

旧針惣旅館は、明治中期頃の蔵と、昭和初期に地元の大工によってつくられた住宅からなっています。六郷の田畑を所有する地主であったことから、蔵は、小作人からの納入米の受付所・事務所として戦前まで使用されていました。戦後、宿泊施設が少なくなったことから住宅部分で旅館業を始め、昭和62年頃まで「針惣旅館」として、土井晩翠(どいばんすい)氏や市川房枝(いちかわふさえ)氏など多くの文人・墨客が滞在しました。

住宅には、さりげない装飾が施された輸入建具が使用されていたり、一部洋風建築となっている部分もあります。一階、二階共に庭に面した広い広縁があり、そこから趣のある庭を楽しんだことを想像させる、美しい姿を今でも残しています。



◆若林区南材木町75

建築物概要

- ◆建築年 店蔵：明治中期、主屋：昭和7年(1932年)
- ◆構造・規模 店蔵：土蔵造り・瓦葺・2階建
主屋：木造・瓦葺・一部2階建
- ◆延べ面積 540.88㎡
- ◆外部仕上 店蔵：海鼠壁、擬石左官仕上
主屋：黒漆喰一部下見板張り
- ◆指 定 日 平成29年12月20日



さ だい しょう てん のぼ がま
佐大商店登り窯



旧城下町の北端、旧奥州街道に沿って広がる堤町は、江戸時代、城下の北端を守る足軽が暮らしたまちでした。近辺で取れる粘土を利用し、足軽たちの副業として焼き物作りが奨励されたのが堤焼の始まりとされます。

この登り窯は、レンガを積み上げ、その上に壁土を塗ったものから造られています。時代の変化により、現在使われてはいませんが、堤町に唯一残されている登り窯となります。東日本大震災で大きな被害を受けましたが、この窯を大切に想う多くの人々の手によって、各房で使われているレンガをできるだけそのままに復元が行われ、その活動は「都市景観の日」実行委員会主催の平成25年度都市景観大賞「景観教育・普及啓発部門」において、大賞を受賞しました。



堤焼は台原一帯の粘土、釉薬(ゆうやく)を使い、大鉢から茶碗など、あらゆる生活用品を作って栄えました。その特徴は、黒釉(くろゆう)に糠釉(ぬかゆう)を流した温かみのある力強い意匠で、気取らない気品の高さから今でも人気です。堤町は堤人形なども作られており、奥州街道を歩いてきた人々の心を和ませていたのではないのでしょうか。

工作物概要

- ◆ 築 造 年 大正7年(1918年)
- ◆ 構 造 煉瓦造(6連ボルト構造)・6連房式登り窯
- ◆ 規 模 幅5.33m・長さ10.9m・窯の内法最高高さ1.88m
- ◆ 指 定 日 平成29年12月20日



◆ 青葉区堤町2丁目11-38

庄子屋醤油店



旧城下町の西に位置する八幡町は、大崎八幡宮と龍宝寺を中心に栄えた門前町で、山形方面と仙台を結ぶ作並街道の藩出入口として、行商人や出羽三山、定義如来参りなどで人々の往来が絶えませんでした。大崎八幡宮を中心に毎年1月14日に行われる「どんと祭」は江戸時代にはじまり、現在も多くの人で賑わう仙台を代表する祭りのひとつです。

庄子屋醤油店は、江戸末期より味噌と醤油の醸造業を営んでおり、今の建物は昭和11年に建てられたもので、県道31号線に面した平入造りの店舗とその奥に平屋建て寄棟造の住宅があります。戦災を免れた代表的な商家

建物として平成12年に文化庁の登録有形文化財に登録されました。

荷物を運ぶ馬を繋ぐための駒つなぎや丁寧な作られた木製建具、仙台旧市街でも多くみられたセガイ造りの軒先などが当時の姿のまま残されています。また、住宅内部の3つの部屋は、それぞれ天井の高さや板の幅、柱の削りなどが異なり細やかな造りになっています。門前町の風情を感じる数少ない建物であり、特に、目の前を通る「どんと祭」の裸参りと一体となった姿には、歴史や伝統を深く感じさせます。



◆青葉区八幡4丁目1-9



建築物概要

- ◆建築年 昭和11年(1936年)
- ◆構造・規模 木造・瓦葺・2階建て一部平屋
- ◆延べ面積 165.87㎡
- ◆外部仕上 外壁:下見板張り一部漆喰壁
- ◆指定日 平成31年2月15日

杜の都景観重要建造物等 マップ

杜の都景観 重要建造物等



1 佐大商店登り窯



2 横山味噌醤油店



3 庄子屋醤油店



4 小林薬品



5 旧丸木商店



6 旧針廻旅館



7 旧仙南堂薬店

旧奥州街道

仙台は、伊達政宗(だてまさむね)公がつくったまちです。政宗公は、慶長5年に岩出山から仙台に移り、青葉山の上に城をかまえ、その城下には岩出山から連れてきた武士や町民を住まわせました。政宗公はまちづくりが得意で、職業によってすむ場所を決めたり、生活のために必要な水路や道路を整備しました。

その中でも奥州街道は、城下町の真ん中をとおり大変重要なみちで、江戸時代の幹線道路である五街道のひとつで、江戸日本橋を起点とし、青森の三厩(みんまや)までつづきました。

杜の都景観重要建造物等でのイベントなど

うれし楽し蔵de ひなまつり



毎年、ひな祭りの時期には旧仙南堂薬店、旧丸木商店、石橋屋などにひな人形などが飾られ、賑わっています。(平成17年から開催)

河原町・南材木町界隈のまち歩き



昔からの建物が残る河原町・南材木町界隈では、様々な機会でもち歩きが行われています。旧針惣旅館では、江戸時代頃から残る美しい庭などを見ることができます。

トライアングル日和-アートと、記憶と、まちと。- 《旧丸木商店》



平成21年11月28日～12月6日まで開催したイベント。「カラフル座敷-染物で彩る日常-」と題して南染師町に残る染物技術や歴史を伝えるため、手ぬぐい、暖簾などの展示を行いました。

通町蔵しっく・みそら Café 《横山味噌醤油店》



平成15年10月11日に開催。蔵を見ながらお茶を楽しむオープンカフェと工場の一角をコンサートホールにしたヴァイオリンによるまちかどコンサートを行いました。

登り窯修復 《佐大商店登り窯》



東日本大震災で大きな被害を受けた登り窯ですが、建築と子供たちネットワーク仙台が中心となり、多くのボランティアの方々の手によって修復することができました。

昔の蔵をデザインしよう 《旧丸木商店》



構造補強も兼ねて、シャッターを格子壁と板戸に修復した際に、地元の南材木町小学校の子どもたちがデザインした、街道と蔵にふさわしい紋を格子壁に描きました。

まち歩き日和 《横山味噌醤油店》



平成21年11月22日、23日に開催。通町界隈を中心に、街の魅力を発見するためのイベントの一つとして、横山味噌醤油店の味噌や醤油を使った明成高校調理科によるスイーツ販売が行われました。



どんと祭 《庄子屋醤油店》

毎年



大崎八幡宮の近くにある庄子屋醤油店では、どんと祭の日にあたたかな味噌おでんやこんにやくを楽しむことができます。

100歳カフェ 《佐大商店登り窯》



登り窯が100歳になったこと、杜の都景観重要建造物等へ指定されたことをお祝いし、平成30年3月6日に登り窯を会場とした記念カフェが開かれました。

蔵で堤人形絵付けわーくしょっぷ 《旧丸木商店》



令和元年9月29日に旧丸木商店を会場に、堤町で堤人形を作り続ける先生の指導を受けながら干支人形に絵付けをしました。

復活祭 《佐大商店登り窯・旧丸木商店》



震災から復興した建造物をお祝いするため、平成24年10月6日に佐大商店登り窯でカフェを、平成24年10月19日には旧丸木商店でコンサートが行われました。

外壁修繕 《庄子屋醤油店》



外壁の下見板が経年劣化し、一部下地も見えている状態であったことから、令和元年度に下見板を取り替える工事が行われました。



改修前

思い出の中に、街は
-旅館「針惣」ものがたり-



杜の都景観重要建造物等へ指定されたことをお祝いするため、平成30年11月18日に旧針惣旅館の座敷を会場に、朗読劇が行われました。

門扉修繕 《旧針惣旅館》



改修前



改修後



改修前

土台の木が腐食し、門扉が大きく傾いていたことから、令和元年度に門扉の傾きを修繕する工事が行われました。

用語 の 解説

❖ 漆喰 ❖

[しっくい]



漆喰は、古くからお城や武家屋敷の壁によく使われていました。漆喰には、白漆喰だけでなく、松のすずを混ぜ黒くした黒漆喰があります。

明るく光る性能を持つ漆喰は、月の光に反射する白壁であることから防犯対策用として用いられてきました。また、燃えない壁材のため、防火対策としての効果もあります。

月の光に反射することから、戦争の時は白漆喰を黒く塗るように言われ、黒く塗られた建築物もあったようです。



❖ 虫籠窓 ❖

[むしこまど]

町屋建築の2階部分で、格子をはめた窓のことを「虫籠窓(むしこまど)」といいます。

格子をはめた様子が、虫かごのようであることから、その名前前で呼ばれています。

通風や採光を確保する役割があります。

❖ 間口 ❖

[まぐち]



土地や建築物の道路に面した部分の幅のことを「間口」といいます。江戸時代には、間口の広さで税金を課していたところもありました。間口が狭く細長い敷地は現在でも残っており、昔ながらの町割りを感じることができます。

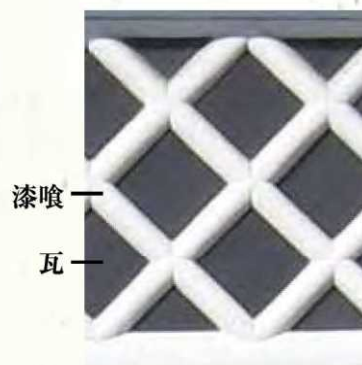
❖ 鬼瓦 ❖

[おにがわら]



棟の端などに設置されている板状の瓦を「鬼瓦」といい、鬼の顔をしたものをはじめ、様々なデザインのものがあります。

昔は身近な生き物や架空の生き物をデザインし、厄除け用のお守りとしていました。怖い鬼をあえて取り付けているのは、鬼を味方することで、悪いことから建築物や家族を守ってもらいたいという願いが込められていたようです。



❖ 海鼠壁 ❖

[なまこかべ]

土壁の上に平たい瓦を竹くぎでとめ、継ぎ目に白い漆喰を盛り上げるように装飾した壁のことを「海鼠(なまこ)壁」といいます。

目地部分の漆喰が、海の生き物の「なまこ」に似ていることから、その名前が付けられました。外壁の防水性、防火性に優れていたことから、土蔵によく用いられました。

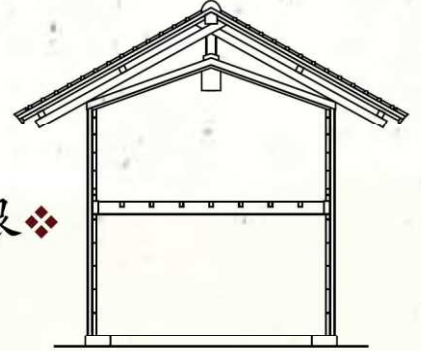


❖ 連子格子 ❖

[れんじこうし]

細い角材を縦に等間隔に並べた格子戸を「連子格子(れんじこうし)」といいます。

防犯や装飾用として、窓の外に用いられています。



❖ さや屋根 ❖

天井裏を土壁で塗り込め、その上に茅葺きや瓦葺きの屋根をのせる形式のことを「さや屋根」といいます。

木でできた部分を土壁で覆う構法であることから、防火対策としての効果があります。



❖ セガイ造り ❖

軒をより深く(長く)とるつくりを、「セガイ造り」といいます。

軒先を長く出すことで、風雨や陽射しをさえぎり、屋根雪による雪害を防ぐ役割があります。また、町家の格式や構えを重厚に見せるための構法でもあります。

日本固有の木造船である和船(わせん)の船棚(船がい)に似ているため、このように呼ばれたようです。

❖ 下見板 ❖

[したみいた]



外壁の仕上げで、幅の広い板を水平や垂直に張った板を下見板といいます。

外壁を下見板張りとすることで、木材の持ち味を生かした、優しさや温かみのある仕上げとすることができます。

※杜の都景観重要建造物等は、所有者の方々が日常生活を送っておられる住居や敷地内にある工作物、営業中の店舗となります。敷地内への無断の立入りはお控えいただくと共に、建造物等の見学や写真撮影などには、お住まいになられているみなさんの生活や店舗に影響を及ぼすこともありますので、十分にご配慮ください。

なお、現時点で店舗として営業をしている建造物等は横山味噌醤油店、小林薬品、庄子屋醤油店の3店舗です。

